

東北大学環境報告書 2016 に対する評価

東北大学環境報告書評価委員会

本報告書は、環境にかかわる東北大学の多岐にわたる活動内容について、体系的かつ網羅的に記述した報告書である。データが適正に開示されて評価がなされており、事業所の報告義務を十分に果たしている。2016年版は簡潔かつ要領よくまとめられ、全体のレイアウトや図表の装丁についても適切で、年度毎に報告書の質が確実に向上しているという印象を受けた。また、2015年版に対する本評価委員会の評価意見が十分に反映されており、特に、一般市民にとって聞き慣れない単語に対する説明や系統だった文章構築は、前年度と比較すると格段に良くなっていると思われる。

最後に、より精緻なデータの入手・評価を行い、本報告書をまとめられた環境報告書作成専門部会（2016年度）のご努力に深く敬意を表する。今後、本報告書がさらに充実し、東北大学の環境マネジメントにさらに有効に活用されることを期待し、本委員会で出された主な意見を以下に列挙するので、参考にしていただければ幸いである。

- 1) 一般市民向けの報告書という観点から、目次に加え、総論と各論1～5の流れを示すような工夫をした方がより分かりやすくなると思われる。また、初出した文言の説明が当該頁にはなく後述されていたり、注釈と本文・図表とのリンクが分かりにくい部分も幾つか見受けられたため、次年度版の編集に対しては更なる改善を期待する。
- 2) 電力需給対策に係る新たな取り組みとして、「回路別電力使用量のチェック」（14頁）について記載したことは評価できるが、表Ⅱ-3の日報例は数字の羅列であるため、適宜グラフを追加する等、読者の理解を促すような形で記述することが望ましい。
- 3) Ⅱ各論1教育・研究活動における環境負荷の状況（12～20頁）においては、現行の環境負荷対応の取り組みに関する記述と並行して、図表中のデータ変動や傾向に対して積極的にその原因を考察するように努めてほしい。加えて、グラフ中の右軸で「床面積1㎡あたり使用量・排出量」や「1人あたり使用量・回収量」を示しているものについては、グラフ中の凡例と同じ文字色としたほうが良いと思われる。
- 4) 10～11頁に示す表Ⅰ-4「環境目的、環境目標、及び2015年度の主な取り組み」は当該環境報告書の要約にあたる象徴的な部分であるため、達成度や根拠に加え、実際の対応として行っていることも示すべきである。これらの対応については、各論部分では論じられているが、総論でも触れるべき重要な事項であると思われるため、次年度版より内容として追加することを検討されたい。